

国債追加供給の効果：新発債と既発債の比較

早稲田大学 宇野 淳

二松学舎大学 戸辺 玲子

要約

国債発行制度では、新発債を短期間で数回追加発行したり、既発債を数年後に追加発行する仕組みが各国で採用されている。2013年以降、日本国債市場においては日本銀行の強力な金融政策の影響で国債が品薄状態になっており、こうした追加供給政策の効果が拡大している可能性がある。実証分析の結果、新発債に比べ既発債のリオープン発行は、新発債の発行額の1/60と小規模であるにも関わらず、イールド低減効果が顕著に大きいことが明らかになった。一方、追加発行の国債レポ市場における国債貸借料への影響は新発債のみで見られた。新発債は日銀の国債購入の中心ターゲットであるため、短期的な売買ニーズが高く、現物・レポ両市場に効果をもたらしていると考えられる。

キーワード：国債入札、流動性、希少性、供給ショック

JEL Classification：G01, G12, G14